

令和5年度 第3回学校運営協議会会議録

記録者：副校長 西里 孝義

事務長 佐々木孝幸

1 日 時 令和6年2月26日(月) 14:00～16:00

2 場 所 大会議室

3 出席者 10名/15名(学校運営協議会委員)

<昨年度からの継続委員>

澤 藤 耕 平 様(退職校長会和賀会事務局長)

関 上 哲 様(富士大学 経済学部教授)

齊 藤 明 様((有)ポス企画取締役 薬剤師)

小 原 和 雄 様(北上コンピュータ・アカデミー校長)

高 橋 樹 久 様(部活動外部指導員(鬼剣舞部))

菊 池 富士子 様(医療法人社団敬和会事業推進室室長)

<新規委員>

加 藤 建 一 様(北上市立南中学校校長)

<学 校>

校 長 千 葉 勝 幸

副校長 西 里 孝 義

事務長 佐々木 孝 幸

4 次第(進行:副校長)

○開式のことば(副校長)5名の委員の方が所用のため欠席しております。

(1) 校長挨拶

お忙しい中、皆様にご出席いただきましてありがとうございます。日頃本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

学校状況については、3月1日さくらホールを会場に卒業生166名の卒業式を実施する予定です。1、2年生は前日の表彰式、卒業式予行に出席させます。来年度意見をいただきながら進めてまいります。

議事進行:(澤藤 委員)

校長先生から学校概況について説明願います。

千葉校長:概況説明

資料p4 11月以降から・・・当初生徒数497名から485名と12名転学等で減少している。

夢を持って入学するが、集団での活動になじめず転学等している。2年次は何事もなく修学旅行を終え元気に登校している。3年次は卒業研究の発表に向けて富士大学の協力をいただいている。

進路状況について、県内専門学校、管内就職が増加し地域に定着している。

部活動については、フェンシング部は、この後長崎の選抜大会に出場します。今年度から部の統廃合に取りかかり、文化部はパソコン部、運動部はハンドボール部(R6高総体までとした)の廃部を決定した。部の加入率は減少しており今年度は、加入率82%であった。生徒の部活動加入の意識は年々薄れており次年度はさらに減少することが予想される。先生方の働き方改革について、部活動時間を含め45時間以内となる。

全体反省の資料から保護者用、生徒用質問内容が異なるので次年度は、注意して対応していきたい。

いじめについて、アンケート実施時と時間的差が生じ具体的に「いつ」「どこで」「だれに」「どのようなか

と」をされたかがはっきりしない。現在のいじめ件数は1件です。

職員評価は全体で4.0と若干上向きである。ICT機器を活用し、生徒の欠席連絡管理や業務内容の見直し等を図り、「職員の働き方改革」対策の工夫をしている。

澤藤 委員

ご意見、質問等お願いします。関上先生から

関上 委員

高大連携学生の受け入れ等を含め御協力いただいている。高校と話し合いの中で外部への発信として学園祭の活用等では、茶道、書道、剣舞部の協力をいただき感謝している。高大連携におきましては、2年次の大学サポート研修課題を講義卒業論文へ良い取組となっている。他校とも連携をやろうとしているが具体的に進んでいない。学園祭での発表を翔南高校生も参加して欲しい。

小原 委員

公開講座について、北上市民セミナー（4～5年続いている）高校と実施したのは初めて、参考となっている。花巻農業とスポーツ連携検討

千葉校長

年間行事予定から生徒に様々な活動が伝えられていない部分を今後は伝え場を提供し、自ら学びの場を増やしていきたい。

副校長

研究発表について、自身を持って発表している。これから内容を印刷して配布予定です。発表の中身が昨年よりも良くなっていると感じる。

小原 委員

部活動生徒の減少について、どのような課外活動をしているか。

千葉校長

数値はないが、生徒からの聞き取りでは、いわゆる帰宅部の生徒は、家での居心地が良いので家で手伝いをしている。部活動を途中で止めてしまう生徒が多い1年次は、体力的なことで止めてしまう。人間関係が上手くゆかない、クラスに馴染めない生徒の部活動離れの大きな要因ではないか。

小原 委員

部活動をしないでアルバイトをしているなどはどうですか。

千葉校長 本校では認めていない。長期休業中のアルバイト、家庭事情によるアルバイトは認めている。

自動車学校は、担任制を行っている。手続きしても生徒が来ない状況がある。

高橋 委員

鬼剣舞部もやめる生徒がいる。グループで入学し、部活動に入部するが、5日間部活動ができるのは、1/3、1/3はできない。毎日、たまに来るも部内では、認めている。コロナの影響もあるのか、コミュニケーション取れない。強い指導は取れない。

齊藤 委員

器楽部はコーチが充実している。さくらホールでの卒業式は大変喜ばしい。翔南の生徒は努力している。今年は1名のみが入部であった。継続できるように検討が必要

北上の生徒が医療系の学校へ行かない。小児科、婦人科が減っている。これから無くなる地域になるかもしれない。

千葉校長 部としての基準はあるが、大きな大会の出場実績に応じた見直しも、活動がない場合など検討したい。

医療系への進学は、若干名いる。看護系の進学は一定数いる。県全体として地元へ戻り、定着するようになりたい。

関上 委員 ダブル加入はどうか。

副校長

ダブル加入は聞いていません。他の部活に借りて参加や、他校と組んで参加する部はあります。外部活動で自転車をやっている生徒がいる。

加藤 委員

部活動の任意加入は、中学校もある。全県的な流れで、入りたくなければ入らなくても良い。保護者も歓迎する傾向にある。

南中の剣道部は、翔南高校の剣道部と練習している。ありがたい。働き方改革で地域移行が進むなか北上市は進んでいない。学校が責任持ては、時代に合わない。地域人材による活動を進めて欲しい。

部活動の集金について地域からの募金は中止した。受益者負担で保護者が負担することとした。

千葉校長 高校は毎年諸会費で部活にかかる分と各専門部、任意加入で活動を制限するまでに至っていない。

今後は、部活動への制限がある。PTA活動とあわせて、生徒会、教育振興費など

働き方改革について、スクラップを実施している。仕事が減らないと帰れない。印刷をなくし、ICT化に取り組んでいる。県の教員51%以上が50代となっている。なかなか進まない業務改善の中で教え会いながらスキルアップしている。

菊池 委員

高齢者施設は5類になっても変わらない。働き方改革を聞きたいと思っていました。一定の生徒は医療系に進学、福祉では地域との連携を検討している。若い職員はおじいちゃん、おばあちゃんと会話はできるが、若い人とのコミュニケーションができない。

高橋 委員

文化祭を見学し、第2体育館の新聞への投票は素晴らしい物であった。

翔南は運動部が弱体化している。部員がいないからやむを得ない。入学者数減が各部への影響がある。

少しでも良い方向へ向かって欲しい。授業終了後先生方は、まず部活動に顔を出し、それから戻って仕事など一定期間だけでもあればいいかと思えます。

澤藤 委員 特色を出すために部活動は多い。

副校長 部活動をしない生徒に対して、多様な生徒がいるので、生徒を外に出し、地域社会と結びつけるような活動をしたい。

澤藤 委員

年度末の郵便局のアルバイトの様子がニュースで流れ、翔南の3年生で（小学校時家庭状況により欠席が多かった生徒）3年間アルバイトをした様子から成長の姿を感じました。

大人の職場でコミュニケーションがとれない、話し合いののがかみわない、仕事がしづらいなど高校をした後は社会では大人の付き合いもあることを学ばなければならない。

進路内定の資料から人口流出が懸念される。人口維持のためには大事な年代だ、都会に定着してまう。

地元へ目を向けるような取組が必要

関上 委員

翔南卒業生（4年生）でアパレル関係の起業を考え将来に向けて活動している。

地域人材として報告を楽しみにしている。

全体的に後半に向けて、欠席連絡をQRコード等ICT活用を進めます。また、教務・情報等ペーパーレス化を進めている。

- ① いじめ問題等夏休み明け以降落ち着いている。先生方の初期対応が良く落ち着いた生活を送っている。
総合学科課・・・一人1台に対応して、卒業研究等で活用している。
保健・相談・・・学年・担任と連携し、早期対応をしっかりとやっている。
農場課・・・農地の貸出や小学校等の連携など地域と繋がりがあがる。
進路指導課・・・発達障害生徒多数いるので、事前に情報交換をするなど努力している。
令和7年度の入試について、調査書6割学力4割としています。国語、数学の点数を高めにしてあります。
また、地域との連携を図るよう取り組んでいる。

(議長：澤藤様)

校長先生から7月からの学校の様子について説明いただきました。本日は出席者少数ですが、ご質問、ご意見等お願いいたします。

(軽石様)

息子が大学1年生ですが、友人で就職した生徒4・5人が退職している。会社が合わない、精神的に弱くうつ状態、弊社の仕事は、夏40度以上の中で仕事をする。職場の状況を分かってきて欲しい。

(校長)

昭和を生きた我々にとっては、理解不能で大人が関わって卒業してきた。精神的に弱い生徒は、幼いと感じる。

(議長：澤藤様)

できるだけ褒める。学校では長所を褒め、良いところを書く。子供たちも叱られなれていない。

(加藤様)

授業を拝見させていただきました。とても落ち着いていて、楽しみながら、タブレットを普通に活用している。そういう時代なんだと感じた。

イチローさんの記事で、「今の若者は、厳しい指導をしていただけない。今それをやるとすぐハラスメントとなるから成長ができていない。自己責任となり自力でやらなければならないから酷だ。」とあった。

社会的にハラスメントとされることが大変と思われている。

特殊支援学級、中学校の段階から、自分に合った進路のマッチングが必要と感じています。最後は家庭で決めるので、高校との情報交換はありがたい。

(校長)

4月から悩んでいた生徒11名(1年次～3年次)については、単位制・通信制の高等学校への進路変更があった。生徒にとって支援が十分できる環境を選択することがよいと思います。高校には特別支援学級はない、教員に特別支援コーディネーターはいるが、常時支援クラスを持っているわけではない。小・中と制度が違うので、高校入学後、小・中と同等の支援を求められても困る。

(昆様)

高卒離職率が気になる。本人の意思を確認しながら手厚く育ててきたつもりだが、適応障害とのことで今月末で退職予定の卒業生がいる。新卒に求人を出せない状況だ。①打たれ弱い②コミュニケーション不足③他人と関わる機会が不足④年齢層が違うので、扱いづらい。⑤連絡手段も返信もない。など大変だ。会社見学は1日でもいいのか、インターンシップの在り方など疑問あり。

また、県交通に連絡し、バス補助について確認したが、和賀地区は車で送迎、バスが安定していない。

・就職後の追跡調査はどうなってるか?・・・個人情報の関係で、実施していない。卒業生の評価はいいようだ。以前は、来校して、話をしていた。

(議長：澤藤様)

私も授業を見せていただきました。落ち着いていた。校外学習の事前準備等、先生方が興味関心を引きつ

ける授業が大切と思いました。

特別支援を必要とする生徒への進路先はどうなっているか。障害のある子供が入学することを前提に指導をすることが理想ではある。入学実績を見て高校を選んでいる

・職場では、コミュニケーション能力不足にどう対応しているか。

(軽石様)

若者の考え方を聞いて、あわせて対応している。

(昆様)

不安で、会話するにも踏み込んでいけない。(セクハラ、パワハラなど) スマホ使用で、個人的にどこまで話をしたら良いのか。

(加藤様)

話し合い学習は上手だが、異年齢と話す機会が少ないので、職場でも若い先生と話すのが困難である。

ボランティア等を説明して地域に出て、人とふれあう機会を増やすなど対策必要か。

今後、益々普通高校を選択される。翔南はそのような生徒を受け入れた場合、どのような対応になるのか。

保護者が理解した上で入学できるようにできたらよい。

(議長：澤藤様)

以上、時間となりましたので、これで議長の任を終わります。ご協力ありがとうございました。

事務局

○閉式のことば (副校長)